

鬼無里大岡観光施設事業 経営戦略

1 策定の趣旨

(1) 策定の目的

鬼無里大岡観光施設は、利用者数の低迷や施設・設備の老朽化等により経営環境の厳しさが増えています。

今後の事業運営のため鬼無里大岡観光施設事業の将来的なあり方を展望し、「投資」と「財政」の両面から経営の方向性を明らかにする「経営戦略」を策定します。

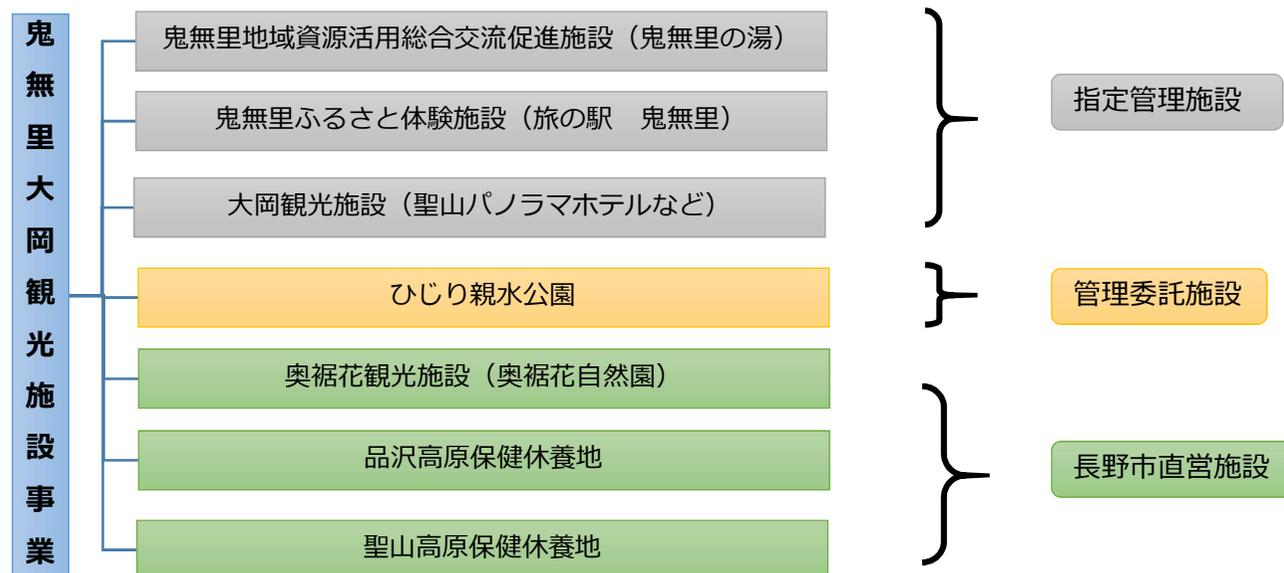
(2) 計画期間

令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間とします。

2 観光施設事業の現状（1）

(1) 施設の運営・管理

鬼無里大岡観光施設事業は下記施設などの管理運営を行っています。各施設は旧鬼無里村・旧大岡村が法非適用の公営企業により管理運営していたものを平成17年の市町村合併により長野市が施設を引き継ぎ、現在に至っています。施設の管理運営は下記のとおり指定管理者制度、管理委託及び直営の3つの方法により実施しています。



2 観光施設事業の現状（2）

（2）利用者数等の状況

鬼無里大岡観光施設のうち、主な施設の利用者数等は以下のとおりです。

①奥裾花観光施設 奥裾花自然園（鬼無里山岳公園）

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用者数(人)	13,919	6,612	8,135	9,346	6,322
使用料収入(円)	4,655,690	2,083,200	2,774,230	3,126,320	2,218,990

②鬼無里地域資源活用総合交流促進施設 鬼無里の湯

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用者数(人)	22,011	8,733	13,062	19,127	17,311
利用料収入(円)	55,759,366	26,119,613	33,398,965	42,319,490	37,927,391

※利用料金制の指定管理施設のため、利用料収入は全て指定管理者の収入となる。

③大岡観光施設 聖山パノラマホテル

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用者数(人)	9,551	7,608	8,434	6,611	6,818
利用料収入(円)	24,627,450	31,094,778	28,290,448	25,656,110	28,013,152

※利用料金制の指定管理施設のため、利用料収入は全て指定管理者の収入となる。

3 経営指標から見る鬼無里大岡観光施設事業の現状

(1) 他会計補助金比率

他会計補助金比率とは、費用が一般会計からの繰入金等でどの程度賄われているのかを示す指標です。

平成29年度を除き、90%前後の極めて高い数値となっており、一般会計からの繰入金に依存した経営体質であるということがわかります。

指標	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
他会計補助金比率	86.9%	92.0%	48.4%	90.7%	95.2%

(2) 減価償却前営業利益 (EBITDA)

法非適用の公営企業の減価償却前営業利益 (EBITDA) とは、本業の施設収益が継続して成長しているかどうかを判断する指標で、総収入における他会計繰入金等の影響を排除した数値です。毎年度マイナスが続いており、本業の使用料収入だけでは経営が成り立たず、収益性がかなり悪い状態となっています。

指標	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
EBITDA	△66,552千円	△59,319千円	△69,095千円	△68,408千円	△70,838千円

(3) 有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却率とは、資産の償却がどの程度進んでいるかを表す指標で資産の老朽化度合を示すものです。

鬼無里大岡観光施設事業会計の有形固定資産減価償却費率は近年増加傾向にあり、固定資産の減価償却が進んでいるものの、新たな設備投資が行われていないために施設の老朽化が進んでいることを示しています。

指標	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
有形固定資産減価償却率	69.6%	69.8%	75.6%	71.5%	71.9%

4 経営の基本方針

(1) 事業の民営化・施設の民間譲渡等に向けた取り組み

①施設の民営化・民間譲渡等

長野市公共施設個別施設計画により施設の将来の方針が「民営化・民間譲渡」となっている施設については、個別施設計画の計画期前半にあたる令和3年度から7年度の間に地元や関係者との協議を行い民営化・民間譲渡の道筋をつけ、令和8年度以降のスムーズな民営化・民間譲渡を目指します。

しかし、民営化・民間譲渡が困難な場合には、施設の用途変更や普通財産化などによる柔軟な施設活用が可能となる方策を検討します。

②一般会計への事業の移管

直営及び管理委託により実施している事業については、施設や敷地の維持管理事業を実施しているものであるため、令和4年度以降に一般会計で実施している事業への統合や事業自体を移管することにより、他の観光施設の維持管理事業と同様、一般会計所管の事業とします。

(2) 事後保全による施設維持

計画期間においては、新設を含めた大規模な改良工事は行わず、利用者の安全を第一に考えた上で事後保全を中心とした施設修繕を実施します。

5 経営目標

(1) 投資について

目標

大規模設備投資は実施せず、事後保全による施設維持修繕を行う。

鬼無里大岡観光施設は、収益的収入に多額の一般会計繰入金を計上しており、独立採算を基本とする公営企業の財務体質からは程遠い状態となっています。

これらを踏まえ、多額の資金が必要となる大規模な設備投資は実施せず、利用者の安全を第一と考えた事後保全による維持修繕を実施していきます。

(2) 財政について

目標

一般会計繰入金額 令和元年度比30%削減

(令和元年度一般会計繰入金額 70,890千円 ⇒ 49,600千円以下)

現在実施している指定管理事業を精査し経営改善方策や稼働状況を踏まえ、新たな活用方法の導入等により指定管理料の減額ができるよう検討します。

また、施設や敷地の維持管理のみを実施している事業については、令和4年度以降に他の観光施設の維持管理事業と同様に一般会計所管の事業とします。

これらの取り組みにより、計画期間中に一般会計繰入金額を令和元年度比で△30%とすることを目標とします。

なお、長野市公共施設個別施設計画に基づく事業の民営化・施設の民間譲渡を進めるとともに、施設の用途変更・普通財産化についても検討し、更なる一般会計繰入金の削減を目指します。

6 収支計画

■財政状況の見通しについて

上記「4 経営の基本方針」と「5 経営目標」により作成した計画期間中の収益的収入は下記のとおりとなり、その主なものは一般会計繰入金です。

財源目標を達成できるよう経費削減策として、指定管理者更新時の指定管理料削減（前指定管理期間の△5%）と維持管理事業の一般会計への移管（令和4年度予定）を見込んでいます。

